

農試第447号  
令和7年7月9日

各関係機関の長 様

福井県農業試験場長

農作物病害虫発生予察注意報第2号の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。

連絡先 福井県農業試験場病害虫防除室

T E L 0776-54-9315

F A X 0776-54-5106

E-mail byogaichu-boujo@pref.fukui.lg.jp

URL <https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/kankyo/boujyo.html>



令和7年農作物病害虫発生予察注意報第2号

7月上旬の水田周辺雑草地における斑点米カメムシ類の生息数は、平年より多い。また、出穂していない水田内への侵入も多く確認されている。今後もカメムシ類が増殖することが予想され、斑点米が多発生する恐れがある。このことから、斑点米カメムシ類の徹底した防除を強く喚起するため、注意報を発表する。

病害虫名 斑点米カメムシ類

1 注意報の内容

発生時期：成虫の本田侵入最盛期は7月5半旬

被害程度：少発、局多発

発 生 量：平年より多く、前年よりやや多い

2 注意報発令の根拠

- (1) 7月2～4日に県内25地点において水田周辺雑草地内でのすくいとり調査(50回振り)を行ったところ、本県の主要な斑点米カメムシ類であるアカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、ホソハリカメムシ等が、県下平均で68.5頭と、平年22.9頭、前年31.4頭より多い。
- (2) 出穂前の水田においても、カスミカメムシ類、クモヘリカメムシ等が侵入している地点が多くみられ、すくいとり虫数(40回振り)は平年の約2倍、前年比29%増となっている。
- (3) アカスジカスミカメやアカヒゲホソミドリカスミカメなどカスミカメムシ類の第2世代成虫の発生最盛期は平年より早い7月4半旬頃と考えられる。
- (4) 早生品種については、平年より早い出穂期となる見込みで、中生・晩生品種についても出穂が早まる傾向にあると推察される。
- (5) 北陸地方の3か月予報(6月24日新潟地方気象台発表)では、気温が高い予報で、直近の1か月予報(7月3日同上)においても、向こう1か月の降水量も少ない予報であることから、今後も斑点米カメムシ類の発生や活動に好適である。

### 3 防除対策

- (1) カメムシ類は、水田の周縁部に多く発生するので、本田防除の際は畦畔も含めて防除する。
- (2) 出穂期以降の草刈りはカメムシ類の水田内への侵入を助長するので行わない。
- (3) 水田内のイネ科雑草が多い圃場では、出穂前からカメムシ類が侵入、繁殖するため、斑点米の発生が多くなる。また、主要種のアカスジカスミカメはイネ科雑草の他ホタルイの穂にも産卵する傾向があるため、これらも含め除草を徹底する。
- (4) ムギ跡の雑草地では、斑点米カメムシ類が繁殖しているため、隣接している水田では、出穂期以降の防除を徹底する。
- (5) 薬剤の散布にあたっては、最新の農薬使用基準（使用時期・使用回数等）を遵守する。

#### 《粉・液剤での防除》

- (1) 穂揃期～乳熟期（出穂3～5日後頃）と糊熟初期（出穂10～14日後頃）の2回薬剤散布を行う。
- (2) 斑点米カメムシ類は、日中はあまり活動しないため、夕方か早朝に薬剤散布を行う。

#### 《粒剤での防除》

- (1) 粒剤での防除は、薬剤によって散布時期が異なるので注意する。
- (2) 散布時は水深3cm程度の湛水状態とし、3～4日湛水した後、自然落水する。

#### 《追加防除》

農薬散布後も水田内に斑点米カメムシ類の発生が多い場合は、追加防除を行う。

◎ 防除対策の詳細は、令和7年度福井県農作物病害虫防除指針参照。

<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/021033/shokuryouanzen/boujoshishin.html>



トゲシホシカメシ



ホリハリカメシ



クモハリカメシ



アカスジカスミカメ



アカヒゲホリミドリカスミカメ